

令和6年度 光沢寺中井幼稚園
自己評価・学校関係者評価 報告書

1. 光沢寺中井幼稚園の教育目標

- いきいきと意欲的に活動する子ども
- 自分も他者も大切にし、みんなのことを考える子ども
- 自分で考え、自分の言葉で話し、自分で行動する子ども

2. 令和6年度の重点目標

- ①-1 子どもたちのやる気を持続させる環境構成と環境の再構成を工夫する。
- ①-2 子どもたちのやる気を持続させるための保育者の関りを工夫する。
- ②職員間の連携を上手く図り、保護者との相互理解を図る。
- ③積極的に研修を受講し、専門職としての意識向上に努める。

※自己評価に関する説明、及びR6年度の総合的な自己評価結果と今後の課題。

評価項目	評価指標 及び 評価結果					
	基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果
重点目標①-1 子どものやる気を持続させる環境構成と環境の再構成を工夫する	4	園内外の様々な環境を保育に取り入れ、豊かな体験が出来るように工夫する	3	4	各々の興味や発想が、クラスの友だちとの協調性につながり、共に遊び込む姿が見られる	3,1
	3	子どもたちの発想や願いを受け止めそれに合わせて環境を再構成する		3	友だちと遊びのイメージを共有し、様々な物を遊びに取り入れて、継続的に活動を楽しむ	
	2	保育室の玩具は、子どもの興味・関心又、時期や発達に合わせて選択・配置をする		2	子どもたちがもっとやりたい、次はこうしたい等、自らチャレンジする意欲をもって活動を楽しむ	
	1	子どもたちが興味をもって自ら遊び始める環境を準備する		1	子どもたちが喜んで登園し、遊びに夢中になっている	
重点目標①-2 子どものやる気を持続させるための保育者の関りを工夫する	4	保育者が日頃から好奇心をもって様々な物を見て知ろうとする意識をもつ	3.2	4	園内外の様々な物に自ら触れ、親しみ、わくわく・ドキドキの体験を楽しむ	3
	3	子どもたちの発想や願いを受け止め、柔軟かつ適宜対応する意識をもつ		3	友だちとの思いを共有しながら興味・関心を深め、より意欲的に活動を楽しむ	
	2	どの子どもも自分の想いや考えが表せるよう対話的な雰囲気大切に		2	友だち同士で考えや思いを伝え合い、どの子どもも自分なりの言葉で語ろうとする	
	1	1人ひとりの想いを汲み取り、自らやろうとする気持ちを大切に、主体的な学びとなるようにする		1	分かり合えるという安心感を持ち、子どもが自らやりたいことに向かって力を発揮する	

重点目標② 職員間の連携を 上手く図り 保護者との 相互理解を深め る		職員同士で共通認識をもち、どの保護者にも理解が得られるような説明をする	3		関係職員の中で共通理解が図れ、個々のケースに合わせた働きかけが適切になされている	3
		クラスや個別懇談会で、保護者の願いや期待や悩み・不安等について、相互理解が図れるように工夫する			保護者が気持ちを受け止められ、具体的な関わりや手立ての提案が出来、より信頼関係が深まっている	
		毎月の定例会やケースカンファレンスでの担任の相談内容や情報交換した内容を関係職員に周知する			子どもたちのケースに関して、担任同士やパート職員、関係職員等が共通認識し、保護者とも共通理解が出来ている	
		日々の連絡や保護者からの相談内容は、職員間で共有し守秘義務を遂行する			保護者が自分の意向を受け止められているという安心感を持ち、気軽に相談出来る関係が出来ている	
重点目標③ 積極的に研修を 受講し専門職と しての意識向上 に努める	4	自分の保育の課題に向き合い学びを深めようと自主的に研修を受ける	3,2	4	常に向上心をもって積極的に学ぶことにより、多角的に自分の保育を捉え子どもたちの姿に合った質の高い保育を目指すようになった	3,2
	3	受けた研修を全職員に伝達し、保育に活用する		3	保育者同士が育ち合いの気持ちをもって意見を出し合い、学びを生かした保育に活気が出ている	
	2	研修を通して学んだことを日々の保育に生かす		2	社会的課題にも焦点を当て視野を広げ様々な要素が日々の保育に取り入れられ、子どもたちの活動に広がりが見られる	
	1	提示された研修案内を見て、積極的に研修を受講する		1	自分の保育を再確認したり新しい知識を取り入れたりして、自分の保育に自信がもてる	

●今年度の総合的な自己評価結果と今後の課題

- 日々の子どもの姿を捉え、タイミング良く環境を構成することが、子どもたちが自ら遊びに集中する時間に繋がることを実感した。
- 絵本の世界を子どもたちと楽しみ、絵本の世界を旅するかのよう遊びが発展し、こどもたちがイキイキと活動を楽しむ姿が見られた。その機会を生かして、“環境の構成” “教材準備”をしたが、時に、担任同士の保育観のズレも顕れた。
- 想定外の事態が起こることもあった。その時は、保育目標を意識しながら、子どもたちと考え合ったり、材料探しをしたり、室内の配置変えをしたりして、活動が充実するように共に作り上げていった。その過程はより興味・関心を深め、子どもたちが意欲的に活動に取り組む姿を引き出した。
- 活動がうまく展開している時は、子ども同士の言葉での伝え合いも上手く行っていたと思われる。が、思う通りに進まない、悔しい思いをする場面もあった。思いやりの気持ちをもって助けたり、協力関係を作ったりする人間関係が築けるように関わってきた。
- タイミングや、伝え方によって、保護者の理解や心情が変化することを意識して、言葉を選び、伝える努力をしてきた。
- 保護者からの相談に乗っても、その気持ちに寄り添い、安心感を抱いてもらえるように話すことが難しいケースもあり、専門職としての未熟さを感じたこともあった。
- 特別支援教育の必要な子どものケースは、個人懇談会で内容の濃い話し合いが出来、子どもを真ん中に保護者との関係も深まり、職員間でも共通理解を図り、職員全員で共通理解して関わる事ができた。
- 幼稚園連盟や行政主催の研修会には、自ら勤務時間を調整して受講したが、自ら学ぶために研修会へ出かけていくことはなかった。
- 人権研修会では、専門職としての視野を広げるきっかけとなったが、社会的課題にも焦点を当て、専門知識として押さえておかなければならないことも多く、今後もっと深く学んでいく必要性を感じている。

幼稚園関係者評価委員の所見

先生と保護者との話し合いが良く出来ていると思います。

【A・G】

幼稚園関係者評価委員の所見

研修も積極的にされており適切な対応されていることを確認しました。

【K・N】

幼稚園関係者評価委員の所見

先生方の情報共有などの仕組みがしっかりされており、問題発生時のフォロー体制などもしっかりとしたもので素晴らしいと感じました。

【N・T】

幼稚園関係者評価委員の所見

送迎の際に先生方が子どもたちの様子を話して下さったり、保護者の意見も聞いて下さるなど、コミュニケーションは良くとれていると感じています。先生方の自己評価が今後も引き続き保育にしっかり反映されることを願っています。いつも、ありがとうございます。

【M・S】